

どう進めるの 学習評価 — 授業実践と評価の工夫 —

回答・玉川大学教職サポートルーム教授 峯岸 誠



授業の目標が達成されたかどうかを判断する基準がよくわかりません。

A このような質問をよく聞きます。まずは、評価の手順を確かめてみましょう。それを図にすると次のようになります。

社会科・分野の目標

↓① 社会科・分野の評価規準

単元の目標

↓② 単元（部、章）の評価規準

毎時の目標

↓③ 毎時の評価規準

④ 評価規準の判断基準
(評価基準)

授業の実践

↓⑤ 評価基準に照らした判断

このように評価規準を設定し、授業に臨み、生徒の学習状況を具体的な基準にあてはめて評価をします。この時の拠り所として国立教育政策研究所から「**評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校社会】**」(以下、「参考資料」)があります。

「参考資料」は、単元を「内容のまとめり」と表現し、地理及び公民的分野は学習指導要領の内容(1)ア、イ…の中項目、歴史的分野は内容の(1)、(2)…の大項目の内容と捉えています。

さらに「参考資料」をよく見ると、地理及び公民的分野の「評価規準の設定例」では具体的な小項目について「・」、歴史的分野では中項目について破線で区切られて評価規準が示されています。従って、上の手順の①、②はこの「参考資料」に拠ればよいということになります。

帝国書院『社会科 中学生の地理』(以下、教科書)を使った授業を想定して上の手順の

③、④、⑤の段階について「資料活用の技能」の観点から具体的な評価の方策を考えてみましょう。

ここでは(1)第1部「2章 世界各地の人々の生活と環境」の「2節 暑い地域のくらし」(教科書p.18~21)を取り上げます。

「2節 暑い地域のくらし」では、地域的特色を写真から読み取る学習が設定されています。評価の観点は「資料活用の技能」が適切です。「参考資料」のp.23では「世界各地の人々の生活と環境の多様性について有用な情報を適切に選択している」とあります。

教科書には豊富な写真が掲載されています。そこで、本時の目標を「教科書の写真をもとに、暑い地域の人々の生活と環境の多様性について読み取らせる」とします。本時の目標は学習内容であり、③の評価規準にあたります。

本時は写真を読み取る学習の最初です。教科書p.21の写真から「どのような視点から写真を読み取らせるか」、「何を読み取らせるのか」という指導の焦点化が必要になります。それが達成できたかの判断基準が④の「評価基準」です。

それでは「評価規準」と「評価基準」はどのような関係でしょうか。この単元あるいは今日の授業はこの「ものさし」で評価しますよというのが「評価規準」です。ものさしには当然、目もりがあります。目もりはA、B、Cという生徒の学習状況になります。これが「評価基準」です。したがって、目もりは通常のものさしとは異なり1つの点ではなく、B(「おおむね満足できる」状況と判断されるもの)を中心として幅があることになります。

それでは、この授業では何をもちてBと判断したらよいのでしょうか。教科書p.21では写真の読み取りの視点（ポイント）として、「自然」、「衣服」、「食事」、「住居」の4つを挙げています。これらをふまえて目標と達成状況をまとめると次のようになります。

目標が達成できたと判断する基準は教科書p.21に記載されています。例えば、「自然」については「ココやしなど、いろいろな種類の木がはえている」、「人々は、暑さと強い日ざしをさけて、家の中にいる」などを読み取っているかどうかということになります。「自然」、「衣服」、「食事」、「住居」について一つ

目標 II 評価規準	教科書の写真をもとに、暑い地域の人々の生活と環境の多様性について読み取らせる。（資料活用の技能）
評価基準	A 写真から自然、衣服、食事、住居ごとの特色をそれぞれ複数読み取り、記述している。
	B 写真から自然、衣服、食事、住居ごとの特色を読み取り、記述している。
	C 写真から自然、衣服、食事、住居ごとの特色を読み取ることができない。

ずつ記述されていれば「B」と判断します。このように、毎時の授業で具体的に学習内容を焦点化し、設定することが必要です。



「世界の様々な地域の調査」や「身近な地域の調査」など活動型の授業の評価はどのようにするのでしょうか。

A 新しい学習指導要領の特色の一つは、生徒主体の課題追究型学習が多く設定されていることです。

課題追究型学習の一般的な指導計画は次のようになります。

学習内容の確認

- ↓ ① 教師が地形図の読図指導などを行う（導入）

生徒の課題設定

- ↓ ② 主題に対応した学習課題を設定する（展開）

課題追究とまとめ

- ↓ ③ 資料を収集したり、フィールドワークなどを行う
- ④ 資料をもとに課題の追究を進める（展開）

生徒の発表

- ⑤ 壁新聞、レポート、パワーポイント等の活用を工夫させる（まとめ）

課題追究など生徒主体の授業の成否は①の段階にあります。いかに生徒に学習内容への

関心をもたせ、課題設定や課題追究に意欲的に取り組ませるかということです。

第2段階の②では、生徒が設定した学習課題が課題として適切か否かの吟味も必要です。これは課題発表会等で行うことが考えられます。この2つの段階では、「関心・意欲・態度」の評価が中心になります。

第3段階の③、④は数時間の活動になります。そこで個別に毎時の学習内容の確認と指導が必要です。ここでは「思考・判断・表現」と「技能」の評価が中心になります。

第4段階では、学習の成果の発表方法として⑤に示すようにさまざまな方法を工夫させましょう。評価は「知識・理解」と副次的にほかの3つの観点の評価も可能です。

このように、活動の場面に応じた評価の観点の配置が必要です。また、その見取りの方法としてノートやワークシート、制作物などが考えられます。その際、場面ごとに先述のような評価規準、評価基準を先生自身が具体的にイメージできるようにしておくことが大切です。